# 令和５年度　地域医療構想における具体的対応方針

## １．基本情報

**病院名：国保中央病院**

**医療圏：東和**

## ２．地域医療構想の達成に向けた将来の方向性について

### （１）地域医療構想を踏まえ、自院が今後地域において担う役割、機能について

当院は平成5年4月に設立された川西町、三宅町、田原本町、広陵町の４町による組合立の自治体病院であります。ただこの4町には急性期機能や救急対応できる病院がなく、本地域で担う基本的な役割としては急性期や救急疾患に対応していかねばなりません。当院では桜井地区病院群輪番参加、内科と外科による重症腹症ネットワーク、消化器病センターの設置、中南和地区の小児2次輪番参加などで、特に小児科は6人の常勤医を持つ当院は、東和地区での小児救急の中核を担っていると思います。重症腹症や緊急手術など急性期医療に対応するために４床のHCUを持ち備えています。

また小児科では奈良県唯一の小児アレルギー専門医の指導の下、小児アレルギーエデュケーター（PAE）をもつ看護師、栄養師、薬剤師でのチーム医療を行っており、多くの小児患者の検査、診療を行ってきています。

内科は消化器内科を中心に常勤医8人から現在7人に減員されて、非常勤医師2人を補充して稼働していますが、近々以前の常勤医数に復する予定です。非常勤としては循環器内科や皮膚科、心臓血管外科や心療内科なども外来診療を行っています。

そして整形外科では令和元年には常勤医が２人だったところ、現在は院長を含めて常勤医を5人に増員して、急性期治療、救急での骨折などの治療を強化することができています。また関節リウマチを含めた手の外科、足の外科では最先端の治療を行っており、県外からも外反母趾や関節疾患など多くの足の外科患者の紹介を受けて、手術を行っています。東和地区での整形外科領域での専門分野のすみわけで、手の外科と足の外科は当院へ集約していく方向ですすめております。

当初は２２０床すべてを急性期で登録しておりましたが、地域での高齢者やより長いリハビリ治療を要する術後患者のために平成26年8月から５０床を地域包括ケア病棟としておりましたが、コロナ禍で地域医療支援の一環で自治体病院の使命でもあり、この6階病棟をコロナ受け入れ病床としておりました。令和4年10月からコロナ受け入れ病床を4階病棟に移動して、令和5年から本来地域包括ケア病棟であった6階病棟を全面改装して、令和5年7月よりリニューアルオープンしました。術後患者や回復期の患者さんをよりよい環境で自宅への退院を目指したリハビリテーションを行っております。

さらに在宅復帰を支援するために令和２年から訪問看護ステーションを稼働させており、その患者数は年々増加しております。そのため在宅後方支援に関しても充実させております。

また当院は面倒見のいい病院の特徴として、県内唯一の独立型の緩和ケア病棟を有する病院として、県内および近隣府県の医療機関から紹介されたがん患者への緩和医療サポートを提供いたします。

急性期医療を終えた患者で４町在住の患者はスムーズに当院の地域包括ケア病棟へ受け入れていくことも重要であります。逆に当院から東和地区に病院の回復期または地域包括ケアを利用させていただくべく、転院を図ることも必要と思われます。

消化器病、小児医療、整形外科の急性期医療と地域包括ケア病棟での回復期および緩和ケア病棟の活用で、地域医療を継続していきたいと考えております。一方で脳神経外科や循環器内科、多発外傷など当院では急性期対応の困難な患者さんは上記の東和地区の３病院と地理的にも近い中西和の急性期病院にて急性期医療を行っていただいた後に、当院で受け入れたいと考えております。

## （２）自院が希望する、地域の病院間での役割分担について

※地域において貴院が担わない又は縮小する役割・機能ができるかぎり明らかになるようご説明ください。

当院では内科および外科による消化器病センター、小児科による小児アレルギーセンターなどとともに小児輪番体制をとっているため対応可能です。また整形外科的な急性期医療も可能であります。
ただ多発外傷で頭部外傷や脳卒中などの脳神経外科および脳神経内科疾患、そして循環器内科で行うべき心血管疾患などには対応困難です。ただ循環器内科的疾患は、週に2回非常勤医師の外来診療があるため、入院患者も含めて診療可能性ではあります。ただ急性期治療が必要な場合には、他院にお願いすることになると思います。ただし急性期治療が終わりましたら、当院への転院受け入れはスムーズにさせていただく所存です。
当院でのがん治療に関して術後のケアのための転院や緩和ケアへの移行などに関しては受け入れてきました。これに関しても今まで通り継続していくつもりです。また整形外科では手の外科、足の外科は最先端の手術を行うことができます。また一般的な骨折を含む外傷治療や変形性関節症の骨切り術や人工関節手術は施行しております。たし脊椎外科に関しては多くは他院に紹介することになります。東和地区では天理よろず相談所病院を希望される患者さんが多く、その他奈良医大、奈良県総合医療センターや香芝旭ヶ丘病院に紹介して、術後安定しましたら当院でのリハビリテーションを行っていきます。ただ火曜日の整形外科非常勤医師は脊椎脊髄外科専門医であり、外来診療は十分可能であります。
それぞれ診療科の中でもすみわけが必要と考えています。患者が安心して医療を受けられる地域医療が大切かと思います。

## （３）（２）を進めるための、地域における連携推進などの取り組み方針について

※複数病院間の連携協定など具体的な取組（予定も含む）があれば、相手方の病院名やその取組の内容をできるかぎり明らかになるようにご説明ください。

繰り返しになりますが、先般の本会議でのありましたように東和地区での急性期医療の中心は令和3年度のデータから天理よろず相談所病院、済生会中和病院および高井病院となっております。ただ当院の立地から奈良医大とも病病連携を正式に組み交わして強化し、天理よろず相談所病院とも連携を図っていく予定です。急性期医療を終えた患者で４町在住の患者はスムーズに当院の地域包括ケア病棟へ受け入れていくことも重要であります。（２）を進めるためには、当院から紹介先の地域連携室などとの強化を図り、特に事務サイド間での関係を密に取っておくことが重要と考えます。地域医療ネットワークが構築されておりますが、さらにネットワークの質と量の充実が必要と思われます。
特に東和の上記３病院と隣接する中西和の西和医療センターや高田市立病院と奈良県総合医療センターとも医師同士の連携だけではなく、奈良医大との病病連携と同様に、地域連携推進のためにさらなる連携が必要と考えます。
また今後働き方改革などでさらに問題になると思われる小児科救急ですが、当院では多く受け入れているもののやはりより多くの小児輪番に参加して頂く病院が必要になると思います。出来得る限り、２次輪番への参加をお願いできればと希望いたします。

## ３．地域医療構想の達成に向けた具体的な計画について

※「（２）地域医療構想の達成に向けた将来の方向性について」を踏まえた具体的な計画について記載してください
※「（３）」では選択肢によって条件設定を行い、回答内容によりそれ以降の問いに対し、システム上回答不要としている部分があります。この条件設定に不都合がある場合（回答することが適しているが選択できない場合など）は「４．その他」へ回答を打ち込んでください。

### （１）機能毎の病床数のあり方等について

※H28年度の列は、別紙１－２「H28年度病床数一覧」の数値を記入してください。
※R5年度、R7年度（2025年度）の列は、今年度の病床機能報告及び別紙様式「急性期機能の細分化の報告」の数値を記入してください。
※ 用語の定義は、病床機能報告と同様です。
※最大使用病床数は１年間（R4.4.1～R5.3.31）に最も多く入院患者を収容した時点で使用した病床数のことです。

（床）

| | | | H28年度 | R5年度 | | | （b）将来 | （b-a） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | （a）許可病床数 | 許可病床数 | 最大使用病床数 | | R7年度 | H28年度からの増減 |
| 一般病床・療養病床 | 高度急性期 | | 4 | | | | | −4 |
| | 急性期 | 重症 | 97 | 54 | 36 | | 54 | −43 |
| | | 軽症 | 69 | 116 | 111 | | 116 | 47 |
| | 回復期 | | 50 | 44 | 44 | | 44 | −6 |
| | 慢性期 | | | | | | | |
| | 休棟中（今後再開する予定） | | | | | → | | |
| | 休棟中（今後廃止する予定） | | | | | | | |
| | 合計 | | 220 | 214 | 191 | | 214 | −6 |
| 精神病床 | | | | | | | | |
| 結核病床 | | | | | | | | |
| 感染症病床 | | | | | | | | |
| 介護医療院 | | | | | | | | |

## （２）領域ごとの医療機能の方向性について

※以下[1]～[16]の領域の今後の方向性（今後の対応や取組方針、他の医療機関との機能統合や連携、機能縮小、機能廃止等）について記入してください。
※選択肢については、あてはまるものにチェックをつけてください。

### [1]がん

**[1-1]当該領域について対応しているか？**

はい

**[1-2]手術の実施**

消化器 乳腺 泌尿器、(男性)生殖器 骨軟部

**[1-3]化学療法の実施**

対応している

**[1-4]放射線治療の実施**

対応していない

**[1-5]拠点病院等の指定**

奈良県地域がん診療連携支援病院

**[1-6]今後の方向性**

当院は奈良県地域がん診療連携支援病院として活動しており、消化器内科と消化器外科による消化器病センターを保持して急性腹症輪番にも参加しています。
奈良医大、天理よろず相談所病院や奈良県総合医療センターなどとも連携を図りながら、重度の手術治療はやや難しいものの、その後のケアや療養などは可能です。
また緩和ケア病棟を有しているため、適応のある患者さんの受け入れを従来通り行っていく予定です。

### [2]心筋梗塞等の心血管疾患

**[2-1]当該領域について対応しているか？**

いいえ

**[2-2]24時間心血管疾患の急性期医療の実施**

**[2-3]緊急心臓カテーテル検査及び治療の24時間365日実施**

**[2-4]経皮的冠動脈形成術もしくは経皮的冠動脈ステント留置術の実施**

**[2-5]心疾患に対する外科手術の実施**

**[2-6]冠動脈バイパス手術の実施**

**[2-7]急性大動脈解離の手術の実施**

**[2-8]大動脈瘤手術の実施**

**[2-9]心血管疾患等への早期リハビリ**

対応していない

**[2-10]今後の方向性**

## [3]脳卒中等の脳疾患

**[3-1]当該領域について対応しているか？**

いいえ

**[3-2]脳梗塞に対するt-PAによる脳血栓溶解療法の実施**

**[3-3]脳梗塞に対する脳血管内治療(経皮的脳血栓回収術等)の実施**

**[3-4]脳出血（くも膜下出血を含む）への対応**

**[3-5]くも膜下出血に対する脳動脈クリッピング術**

**[3-6]くも膜下出血に対するコイル塞栓術**

**[3-7]脳出血に対する開頭血腫除去術**

**[3-8]脳血管疾患等への早期リハビリ**

対応している

**[3-9]奈良県脳卒中地域連携パスへの参加**

参加していない

**[3-10]今後の方向性**

## [4]救急医療

**[4-1]当該領域について対応しているか？**

はい

**[4-2]救急告示病院の指定を受けているか？**

はい

**[4-3]大腿骨骨折への対応**

対応している

**[4-4]病院群輪番制への参加**

参加している

**[4-5]小児科病院二次輪番体制への参加**

参加している

**[4-6]今後の方向性**

桜井地区輪番制や重症腹症ネットワークに参加し、小児に関しては中南和小児科二次救急輪番体制に参加しており、今後も維持していく予定であります。

## [5]リハビリ

**[5-1]当該領域について対応しているか？**

はい

**[5-2]心血管疾患等への早期リハビリ（再掲）**

対応していない

**[5-3]脳血管疾患等への早期リハビリ（再掲）**

対応している

**[5-4]回復期リハビリ病棟入院料届出の有無**

無し

**[5-5]訪問リハビリの実施**

対応していない

**[5-6]通所リハビリの実施**

対応していない

**[5-7]今後の方向性**

循環器内科や心臓血管外科の積極的な入院治療を行っていないため、心血管リハビリは制限されています。また脳血管にリハビリに関しても脳神経内科や脳神経外科がないために限定的です。
主に運動器リハビリをおこなっており、地域包括ケア病棟におけるリハビリは自宅退院に向けてのリハビリを施行しています。

## [6]在宅医療

**[6-1]当該領域について対応しているか？**

**※ここで言う在宅医療は「在宅医療の提供」「他医療機関等との連携」「後方支援」を含む概念とします。**

いいえ

**[6-2]在宅療養支援病院の届出の有無**

**[6-3]在宅療養後方支援病院の届出の有無**

**[6-4]訪問リハビリの実施（再掲）**

対応していない

**[6-5]今後の方向性**

## [7]訪問看護

**[7-1]病院看護師が当該領域について対応しているか？**

はい

**[7-2]同一法人内に訪問看護ステーションをもっているか？**

はい（施設名称をご記入ください）（国保中央病院訪問看護ステーション）

**[7-3]今後の方向性**

令和2年から訪問看護ステーションを稼働させており、その患者数は当初は増加傾向でありましたが、最近では減少傾向にあり、今後検討課題としています。
各診療科とのタイアップを密に行って、効率的に患者数を増加させるようにしていく予定です。そもそも訪問看護および訪問診療の需要はこれからも増えることが予想され、今後も規模を拡大し対応していく予定です。

## [8] ＡＣＰ（アドバンス・ケア・プランニング）への取組

**[8-1]「適切な意思決定支援に関する指針」(「適切な看取りに対する指針」)について**

定めている

**[8-1]今後の方向性**

現状では、指針を定めて院内に取り組みを定着させることに重きを置いている。将来的には、他の医療機関等との連携を図っていきたいと考えている。

## [9]小児医療

**[9-1]当該領域について対応しているか？**

はい

**[9-2]小児入院医療管理料の算定**

している

**[9-3]新生児特定集中治療室管理料の算定**

していない

**[9-4]小児科病院二次輪番体制への参加（再掲）**

参加している

**[9-5]今後の方向性**

小児医療は、急性期医療（救急を含む）だけでなく慢性疾患（アレルギー疾患、けいれん性疾患、腎疾患、内分泌・代謝疾患）の診療にも力を入れています。

## [10]周産期医療

[10-1]当該領域について対応しているか？

いいえ

[10-2]分娩の取扱い

[10-3]ハイリスク分娩管理加算の算定

[10-4]今後の方向性

## [11]災害医療

[11-1]当該領域について対応しているか？

はい

[11-2]災害拠点病院の指定を受けているか？

いいえ

[11-3]ＤＭＡＴ指定病院の指定を受けているか？

いいえ

[11-4]ＥＭＩＳ（広域災害救急医療情報システム）への参加

参加している

[11-5]今後の方向性

　令和２年１２月にBCPを策定し、以後毎年訓練を実施しており、BCP及びBCPの遂行体制の維持的改善に取り組みます。

## [12]へき地医療

[12-1]当該領域について対応しているか？

いいえ

[12-2]へき地医療拠点病院の指定を受けているか？

[12-3]今後の方向性

## [13]新興感染症等の感染拡大時における医療

**[13-1]診療・検査医療機関の認定を受けているか？**

はい

**[13-2]新型コロナウイルス感染症の陽性患者入院受入を行っているか？**

ただし自院に他疾患等で入院していた院していた患者は除く。

はい

**[13-3]「感染症患者の受入を想定した研修や訓練」を、年1回以上自院で実施しているか？**

いいえ

**[13-4]下記訓練に年1回以上参加しているか？**

行政機関（保健所等）や他医療機関等が主催する「感染症患者の受入を想定した研修や訓練

いいえ

**[13-5]下記訓練を、自院で年1回以上実施しているか？**

新興感染症の発生に備えた病床確保に当たってのシフトや応援に係る訓練・点検、院外から移送された患者の受入の流れを考慮した訓練

いいえ

**[13-6]今後の方向性**

当初からは当院6階の地域包括ケア病棟をコロナ病棟としていたが、現在は4階病棟の個室の一部をコロナ病床として確保して、運用しています。今後また新興感染症の拡大時には再び感染症病棟としての機能を果たせるように準備を整えておく予定です。

## [14]医師の研修・派遣機能（臨床研修の実施等を含む広域的な医師派遣の拠点としての機能）

**[14-1]当該領域について対応しているか？**

はい

**[14-2]基幹型臨床研修病院の指定を受けているか？**

いいえ

**[14-3]協力型臨床研修病院の指定を受けているか？**

はい

**[14-4]臨床研修協力施設であるか？**

はい

**[14-5]専門研修の基幹施設であるか？**

はい

**[14-6]専門研修の連携施設であるか？**

はい

**[14-7]今後の方向性**

奈良県立医科大学付属病院や西和医療センターからの初期研修医を受け入れています。小児科、緩和ケア科などを中心に研修、指導を行っています。

## [15]医師の働き方改革

### [15-1]医師の宿日直許可の取得状況

取得済み

### [15-2]今後の方向性

当院は宿日直許可を平成17年に得ています。
現状では医師の超過勤務時間は20時間未満であり、他業種でも10時間以内で経過しております。時間外は病院内でとどまらず、自己研鑽に関しては帰宅後行っているのが現状です。
ただ今後も医師の超過勤務時間などは常に把握し、時間数の多い比較的多い診療科や医師への指導などは随時行っていきます。現在のところ適正時間内になっています。また本来の医師の仕事以外の事務的な仕事に関しては、タスクシフトとタスクシェアリングをすでに実行しており、さらに充実させていく予定です。
また複数主治医制度をとる計画も検討しています。一患者に対して２，３人の担当医をおいてタスクシェア、また年次休暇も取りやすい状態にできるようにもなるものと思われます。

## [16]看護職員の研修機能

### [16-1]特定行為研修の指定研修機関の指定申請予定はあるか？

ない

### [16-2]特定行為研修の協力施設の申請予定はあるか？

ある

### [16-3]今後の方向性

協力施設として、奈良県立医科大学とろう孔管理関連を、京都橘大学と創傷管理関連並びに栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連を連携している。

# ４．その他